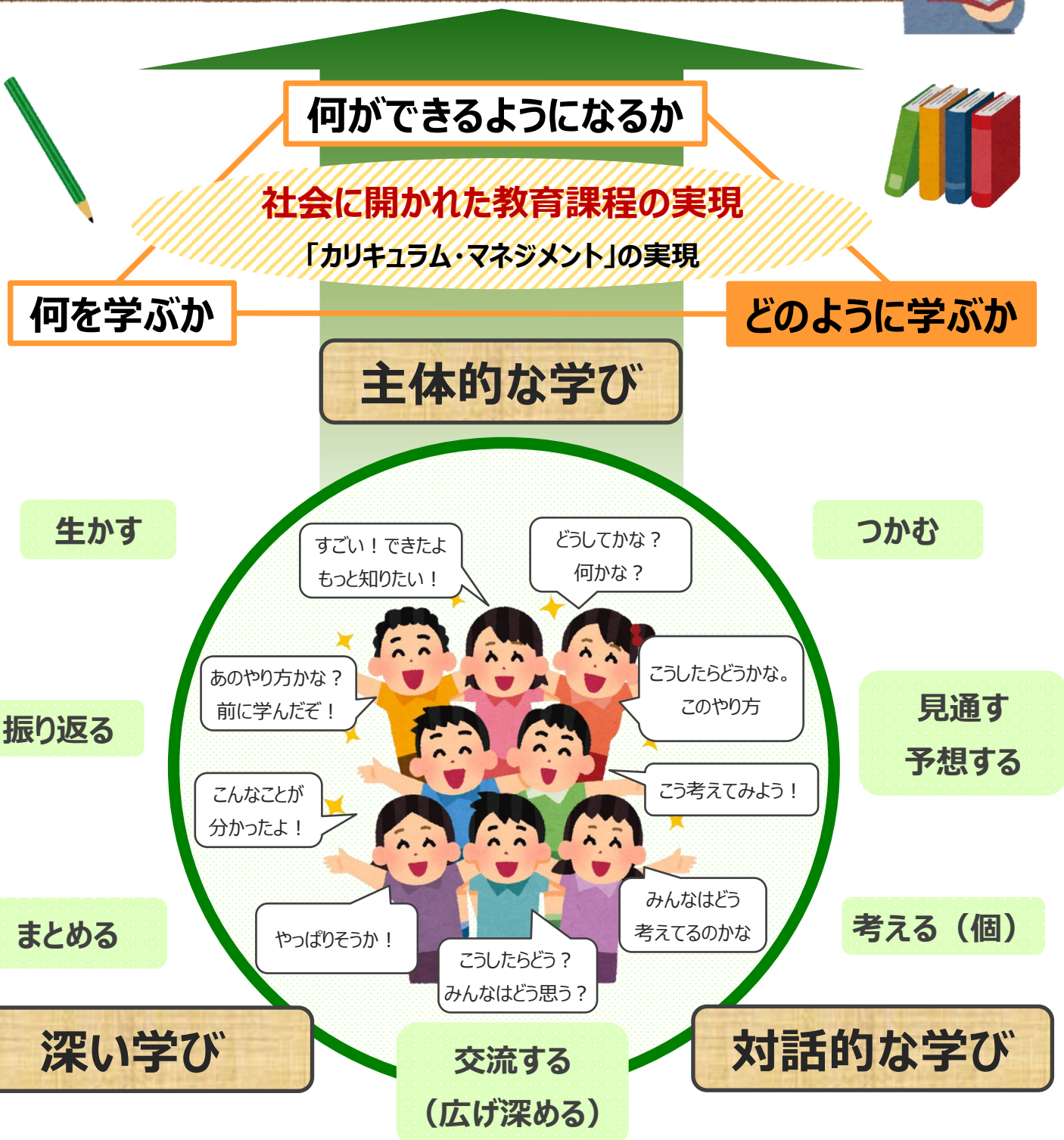


# 銚田市授業スタイル 2nd

## 新学習指導要領 前文

一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、**持続可能な社会の創り手**となることができるようにすることが求められる。



※図は、学びの順序性や学びの過程を全て網羅することを示すものではありません。

# 学習の主な流れ（例）

自分の力で  
やってみようとする

## 主体的な学び

学びへ  
前のめりになっている

### ▶ つかむ

- 教材や事象との出会いから問いを見つける（子供）
- 気になること、既習とのズレから問う（子供）
- 学習のねらいに応じた学習課題を提示（教師）
- ★まとめ、振り返りにつながる課題の設定



＜例＞ ・鎌倉幕府はなぜ滅んでしまったのか。（小社）  
・本当の思いやりって何だろう。（小道）  
・ゴリラ、オランウータン、チンパンジーで人に近縁なのは。（中理）

この場面で指導者は、

- ① **子供の実態（既習事項の定着度、学習への関心など）を確認する。**
- ② **単元や本時の学習内容、教材から、  
子供の学びの広がりや深まりの可能性を見通しておく。**

ことが大切です。

### ▶ 見通す 予想する

- 学習をどう進めるか（プロセス）のイメージ
- 学習の到達点（ゴール）のイメージ

自分で発見して 話し合いから 教師の提示から

**「何を」「どのように」考えるかを見通す、予想する**

### ▶ 考える（個）

- 既習事項（知識、技能、考え方など）を想起して【足場、手がかりに】
- 自力解決に向かって熟考する（設定した時間内で）
- 自分の言葉で語るができるように

👉 **考えるための技法**

- 順序付ける ○比較する ○分類する
- 関連付ける ○多面的に見る ○多角的に見る
- 理由付ける ○見通す ○具体化する
- 抽象化する ○構造化する

これらの場面で指導者は、

- ① **子供の姿を丁寧にみる、丁寧に話を聴く。**
- ② **子供の思いや考えを理解する。（解釈する）**
- ③ **端的に発問したり、問い直したりして焦点化する。**

ことが大切です。

交流の意味を  
理解している

# 対話的な学び

交流のよさを  
実感している

## ▶ 交流する（広げ深める）

★音声での交流（聴き合う、語り合う）

- 「何を」「どのように」「どうするのか」
- 交流を通して、考えをまとめ、広げる
- 安易にまとめさせない、強い意見に流されない

他者との協働、他との相互作用を通じて

- ・どんなやりかたでやったの？
- ・分かりやすかったのはどのグループ？
- ・もっと聴いてみたいグループはどこかな？



「つなぐ」  
「つながる」  
「つなげる」

この場面で指導者は、

- ①教師による仕掛けや伏線、立ち位置、出番を意識する。
- ②子供の発言を丁寧に聴いて問い返す。（揺さぶる）
- ③子供同士をつなぐ、子供と教材をつなぐ。（関連付ける）
- ④子供の思考をねらいや教材にもどす。

ことが大切です。

## ▶ まとめる

★本時のねらいに応じて・・・

★課題解決したときの具体的な子供の姿を想起して

- 話し合ったことをつなげ、構造化する
- 話し合ったことを文字で整理、再構成する



学びの広がり深まりにより・・・ 「分かった」「できた」「決着した」実感をもつ

- 知識や技能の相互のつながり
- 課題解決の場面や状況のつながり
- 「分かったつもり」にしない手立て

この場面で指導者は、

- ①分かりやすい板書、端的な発問をする。
- ②本時のねらいとの関係を考えさせる。（照合する）
- ③どのように学びをまとめるかを決める。（判断する）

ことが大切です。

他や未知の状況で  
活用できるか

# 深い学び



## ▶ 振り返る

- ★ノートや振り返りカードを活用して文字で考える
- 学習のプロセスやゴールの内容を振り返る
- 分かったこと、できるようになったことの確認
- どうつながっているか、どう生かせるか
- 自己変容の気付き（充実感、自己有能感）



この場面で指導者は、

- ①本時の課題との関連で考えさせる。
- ②できるようになったことを取り上げて価値付ける。
- ③子供の具体の姿を評価する。

ことが大切です。

## ▶ 生かす

- ★新しい気付きや問い
- 学習したことが大切だ、役に立ちそうだという実感
- 学習したことが活用できる手応え
- 自分の力が発揮できそうな手応え
- ★学びに向かう力の推進力へ



この場面で指導者は、

- ①子供の姿を丁寧に見取り、発言をつなぐ。（解釈する）
- ②知識や技能の関連性を意識化する。（つなげる）
- ③活用、発揮できる可能性を価値付ける。

ことが大切です。

### 【子供たちの「主体的・対話的で深い学び」の実現のために】

- ①銚田市授業スタイル2ndを自校化，自分化する。
- ②スタイルを定型化したものと捉えない。
- ③それぞれの活動の「意味」を考え，授業設計する。
- ④子供たちにどんな力を付けたいか，そのためにはどうすればいいか，を大切にする。



「やればできる」「受け止めてくれる」「自分もなかなかだ」  
と子供たちが実感できる学びを目指して

# 平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果分析と取組（銚田市）

## 1 小学校（国語）

### ▲ 文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書くこと（修飾語と被修飾語：3.4年）

5

大山さんは、春休みの出来事について文章を書いたあと、読み返して、……部と……部とのつながりが合っていない文があることに気づきました。次の「春休みの出来事の一部」をよく読んで、あとの（問い）に答えます。

【春休みの出来事の一部】文のはじめにある数字は、そのあとの番号を示しています。

① ぼくは、校庭で野球の練習を毎日がんばりました。その努力は先事に実りました。② ぼくたちのチームは、地区大会で優勝したのです。③ 今年の春休みは、とてもじょうずな手を入れたものになりました。でも、反省していることもあります。④ 反省点は、用具の手入れをあまりしませんでした。これからは、練習だけではなく、用具の手入れもしっかりがんばりたいと思います。

- 1, 2 学年では、書き言葉、話し言葉の中の主語と述語との関係に気付き、適切な係り受けの関係の重要性を確認する。児童が書いた文章を添削して、主述関係を意識させるようにするなど、普段の授業等の中で、自分の書いた文を読み返すときに、主語と述語の関係を確かめる習慣をつける。
- 3, 4 学年では、主述関係に加えて、修飾と被修飾との関係を意識して指導する。児童が相互に推敲したり、学級全体で文章をどのように添削すると正確に伝わる文章になるか考えたりする時間を設定する。
- 主語と述語、修飾と被修飾との関係をはっきりさせるとともに、「だれが」「いつ」「どこで」「なにを」「どのように」「なぜ」などの文の構成について、繰り返し書く経験を増やすようにする。
- 作文をする際には、語句の役割や語句相互の関係に気をつけて書くことと書いた文を読み返す場面を設ける。主語と述語が照合していない場合には、正しく書き直す活動を取り入れて、自分の伝えたいことを明確に伝える力をつけていく。
- 自分の経験したことや体験したことを文の構成を考えながら日記に書いたり話したりする時間を朝の会や授業の初めに取り入れている。

【指導事例】平成30年度 授業アイデア例 参照

### ▲ 相手や場面に応じて適切に敬語を使うこと（敬語の使い方：5.6年）

【話を聞いている様子（の一部）】

石橋さん みなさん、池田さんがア 今日、おどうふ屋さんの仕事について、たくさん教えていただきました。池田さん、お願いします。

池田さん みなさん、こんにちは。

石橋さん 池田さん、ありがとうございます。池田さんに質問のある人はいますか。

高野さん おどうふ屋さんは、朝早く起きなければならぬので、とても大変だと私の母がイ のですが、池田さんはどうですか。

- 授業において、敬語の意味や種類を理解させるために場面に応じた表現を書かせたり、役割を分担して会話したりする活動を取り入れる。また、学校行事や校外学習などの機会には、相手や場面に応じて、適切に敬語を使って話したり、手紙を書いたりする活動を取り入れる。
- 朝の会や帰りの会などでのスピーチタイムで、相手を意識しながら話す機会を数多く設定するようにし、敬語の使い方についての理解を深めるようにする。
- 常時使う敬語は、教室内に分かりやすく絵と言葉で掲示する。
- 校外学習などのインタビューを行う場面に向けて、相手に失礼のないように丁寧な言葉遣いができるように日頃から指導する。

### ▲ 伝記を読んで、心に残ったことについて自分の考えをまとめること（目的に応じて、本や文章を比べて読む：5.6年）

【自伝「旅人」の一部】

先生は端然と、はかまをはいてすわっていた。私たちが座敷に出ると、いつも先生の方から先にお辞儀をされる。男の兄弟たちは、だいが、へええきしたらしい。何時ともなく、次第にけいこをやめてしまった。が、私だけは黙ってつづいた。

「あなたが一番上手です」という先生の言葉に、おだてられた気味もないとはいえないが、私一流の辛抱つよさが、いったん始めたことをなかなか捨てさせなかったということもあった。

1 湯川博士が自分自身をどのように思っていたのか。  
2 湯川博士がどのような書き方を身につけたのか。  
3 湯川博士がどのような研究に取り組んでいたのか。  
4 湯川博士の兄弟姉妹はどのような様子だったのか。

（湯川孝樹「旅人」ある物理学者の回想）による

- 活字の多い文章に慣れるために、読書タイムの時間に読むのに適した本を紹介する。また、様々な情報から必要な情報を抜き取る問題に数多く取り組む。
- 授業に関する本を紹介し、並行読書を行っていくなど、教室や学校図書館に設けてあるおすすめ本コーナーを活用し、読書習慣を形成する。
- 学校図書館などを活用して、複数の本や新聞などで調べたり考えたりしたことを比較、分類、関係付けるなどして分かったことと、それらを基に考えたことをまとめて、文章に書いたり発表したりする。
- 同じテーマについて異なる書き手による本や文章異なる新聞社による新聞記事、雑誌、インターネットから得た情報などを活用して、共通点や相違点を明確にして文章をより深く理解できるようにする。
- これまでの偉人達の伝記を読むことで、人物の生き方や考え方をより深く知ることができることを指導する。実際の本を見せながら、どこにどのような情報が、どんな書かれ方で載っているのかを示したり、見出しに着目するなど効果的な読み方をしている児童の読み方を具体的に紹介したりするを行う。

【指導事例】平成30年度 授業アイデア例 参照

## 2 小学校（算数）

◎ 180°の角の大きさを理解し、角の大きさを正しく求めることができる。

◎ 1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表すことができる。

### ▲ 円周率の意味についての理解（円、球：3年 円周率：5年）

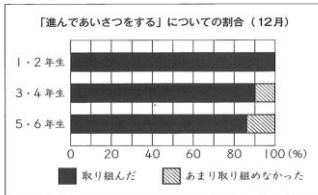
(1) 円周率を求める式を、下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 円周の長さ×半径の長さ
- 2 円周の長さ×直径の長さ
- 3 円周の長さ÷直径の長さ
- 4 直径の長さ÷円周の長さ

- ・円周率について学習する際には、作業的・体験的な活動を通して、円周率が円周の直径に対する割合であることを理解できるようにすることが大切である。例えば、身の回りにある円の形をしたものについて、円周の長さや直径の長さを測定し、円周の直径に対する割合を調べる活動が考えられる。また、いつでも円周の長さが直径の長さの約3倍になっていることに気付かせることが大切である。
- ・測定する活動で終わりにせず、直径、円周、円周率の関係について話し合いを行い、関係性をまとめることで、理解に繋げていけるようにする。

### ▲ 日常生活の事象を、グラフの特徴を基に、複数の観点で考察したり表現したりすること（棒グラフ：3年 目的に応じたグラフの整理：5年）

グラフ2



(2) グラフ1とグラフ2を見て、次のようにまとめます。

- ・「進んであいさつをする」に「取り組んだ」と答えた人数が、いちばん少ないのは [ ㉔ ] です。
- ・ [ ㉔ ] の、「進んであいさつをする」に「取り組んだ」と答えた人数の割合は、いちばん [ ㉓ ] です。

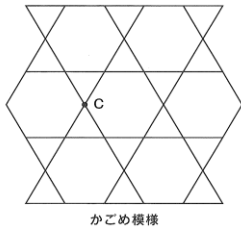
上の㉔にははまるものを、下の1から3までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。また、上の㉓にははまるものを、下の4と5から選んで、その番号を書きましょう。

- ・グラフから読み取れることを、具体的な数字や言葉で述べたり記述したりするようにする。理科や社会科においても同様に行い、グラフから正しく読み取れるようにする。また、日常生活の中で情報を収集して表やグラフに表現する活動を取り入れたい。文を書くことが苦手な児童には言葉を当てはめる文を用意して練習することを重ねたい。
- ・グラフの読み取りはもちろん、資料を分類整理するために、実際にアンケートをとって情報を収集し、表やグラフなどに整理して考察し、表現する活動を取り入れる。


【指導事例】平成30年度 授業アイデア例 参照

### ▲ 日常生活の事象を図形の構成要素や性質を基に観察し、図形を判断したり、事柄が成り立つことを論理的に考察し、数学的に表現したりすること

はるとさんたちは、さらに、かごめ模様も調べることにしました。はるとさんたちが調べているかごめ模様は、合同な正三角形と合同な正六角形でできつめられていました。



かごめ模様

はると  点Cのまわりに集まった角の大きさの和は、360°になっています。

- ・図形の構成要素や性質を基に筋道を立てて考え、事柄が成り立つことを説明することができるようにすることが大切である。指導に当たっては、合同な多角形で敷き詰められているとき、敷き詰められた図形の一つの点の周りに集まった角の大きさの和が360°になることを実感できるようにする。さらに、式と図を関連付けて説明する活動を授業に取り入れていく。
- ・図形の名称については、各学年で作図や模様作成などを行い、形と名称をしっかりと覚えさせる。
- ・5年生の授業において「正三角形の内角の和は180°」を使い、多角形に補助線を入れて内角の和を求め、1つの角を求める活動を取り入れることで、角の求め方の定着を図っていく。
- ・図形を拡大提示して説明を行い、図形の性質や特徴を視覚的に理解できるようにする。（ICTの活用）
- ・最終的に何をすれば説明できるかを明確にして、図や文章から必要な情報が書き出し、順序立ててを記述する場面を普段の授業で多く取り入れる。

(2) 点Cのまわりに集まった角の大きさの和が、360°になっていることを、着目した図形の「名前」と「角の大きさ」がわかるようにして、言葉や式を使って書きましょう。

### 3 小学校（理科）

◎ 安全に留意し、生物を愛護する態度をもって、野鳥のひなを観察できる方法を構想できる。

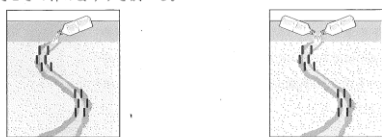
◎ 骨と骨のつなぎ目について、科学的な言葉や概念を理解している。

▲ より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述すること  
(土地の浸食：5年)

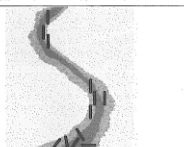

水の量を変えた実験

○地面のけずられ方について詳しく調べるために、みぞの曲がっているところの外側と内側に3本ずつ棒を立てる。

○1本のペットボトルの水を流したときと、2本のペットボトルの水を同時に流したときの棒のようすを調べる。



実験結果

1本のペットボトルの水を流したときの棒のようす	2本のペットボトルの水を同時に流したときの棒のようす
	

(3) 上の実験の結果から、川を流れる水の量が増え、川の曲がっているところの外側と内側の地面のけずられ方は、どのようになると考えられますか。下の 1 から 4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。また、その番号を選んだだけを実験結果の「水の量」と「棒のようす」がわかるように書きましょう。

- ・第5学年で学習した「流れる水の働き」の知識を定着させるだけでなく、「理科のたまてばこ」や「学んだことを生かそう」などに記載された内容を問題形式にして解くことで、生活と関連付ける。
- ・3年生から実験を行う際に、友達との比較検討をする時間を意図的に設定する。
- ・流れる水のはたらきによる地面の削られ方の実験の際に、水の量を変えた場合の変化を予想させたり、実際に実験したりして、実感をともなって理解できるようにする。また、実験に取り組む際には、実験結果を基に考察する時間を十分に取るようにし、自分の考えを記述できるような力を身に付けられるようにする。
- ・実験のねらいと結果がどう結び付くか、特に結果の図をよく見取る練習が必要である。また、文章で説明するとき、「『水の量』と『棒の様子』がわかるように」とあるので、この2つの要因の関係を言葉で伝えられるようにする必要がある。

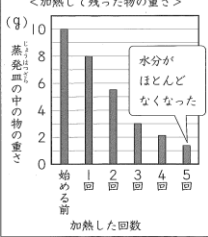
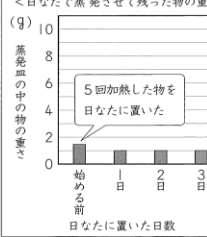
【指導事例】平成30年度 授業アイデア例 参照

▲ 実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述すること  
(実験結果を基に分析し、問題に正対したまとめをする：3.4.5.6年)

ゆかりさん：食塩は蒸発しないから、1gちょうど出てくると思うよ。

まもるさん：食塩も蒸発するから、1gより少なくなると思うよ。

実験結果

<加熱して残った物の重さ>	<日なたで蒸発させて残った物の重さ>
	

ゆかりさんは、実験の結果からいえることを、下のようまとめました。

【実験の結果からいえること】 水にとけた物は蒸発しない。

まもるさん：この実験の結果からそこまでいいのかな？

(4) ゆかりさんが【実験の結果からいえること】としてまとめた内容は、【問題】に対するまとめとしてふさわしくありません。ふさわしいまとめになるように書き直しましょう。

- ・実験結果を基に分析し、問題に正対したまとめができるようにするためには、問題を確認し、実験などで得られた結果を根拠とした考察を行い、実験結果から言えることだけに言及した内容かどうかについて検討することが大切である。指導に当たっては、実験の結果から言えることをまずは自分で記述し、その後、お互いの考えを伝え合い、吟味し合う学び合い学習を積み重ねていきたい。
- ・実験結果をまとめるにあたっては、実験前の予想はもちろんのこと、どのような実験が必要か自分で考え、黒板や友達の手帳を写したりせず、自分の力でまとめを行う必要がある。書き込みが足りなければ、自分の考えに補足するような学習の仕方が身に付くよう徹底する。





## 5 中学校（数学）

◎ 数直線上に示された整数を読み取ることや、式の計算をしたり、式の値を求めたりすることができる。

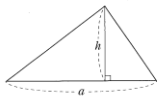
◎ 比例式や連立二元一次方程式を解くことができる。

▲ 数量の関係を、文字を用いた式に表したり、等式の性質を用いて、目的に応じて変形したりすること（式の変形：2年）

(4) 右の図で、底辺の長さ  $a$ 、高さ  $h$  の三角形の面積  $S$  は、次のように表されます。

$$S = \frac{1}{2} ah$$

底辺の長さを求めるために、この式を、 $a$  について解きなさい。



- 具体的な場面で、関係を表す式を、等式の性質を用いて、目的に応じて変形することに課題が見られた。等式の変形は、方程式を解いたり関数関係を考えたりする上で必要である。各学年の授業の中で、等式の性質を取り上げるとともに、目的に応じて等式を変形することを指導していく。

▲ 一次関数について、式とグラフを関連付けて理解すること（一次関数：2年）

A⑪

一次関数  $y = 2x + 7$  について、 $x$  の値が1から4まで増加したときの  $y$  の増加量を求めなさい。

- 多くの生徒が  $x$  に3を代入して、 $b$  の部分の7を足してしまった。この結果から、式と表、グラフを関連させて考えていないことが分かる。1次関数の単元では、常に、表、式、グラフの関連性を意識させながら指導していく。
- 変化の割合を扱う第2学年、第3学年において、 $x$  の増加量と  $y$  の増加量について実際に求める活動を通し、 $x$  の値の増加に伴って  $y$  の値がどのように変化するかを調べる活動を取り入れる。

▲ 最頻値、中央値、確率の意味を理解すること（資料の活用：2年）

A⑭ ある中学校の3年生の男子生徒35人の運動靴について、サイズごとに何人いるか調べました。この35人の運動靴のサイズの最頻値は25.5cmでした。このとき、必ず言えることを選びなさい。

- ある資料の傾向を調べるために、度数分布表やヒストグラムを作成し、その資料から代表値を求める経験を通して、中央値、最頻値、平均値の意味の違いと求め方について確認していく活動を取り入れる。

▲ 判断の理由を数学的な表現を用いて説明したり、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明したりすること。事柄が成り立つ理由を、根拠を明確にして説明すること。

B② (2)

「はじめの数としてどんな整数を入れて計算しても、計算結果はいつでも4の倍数になる。」という海斗さんの予想が成り立つことの説明を完成させなさい。

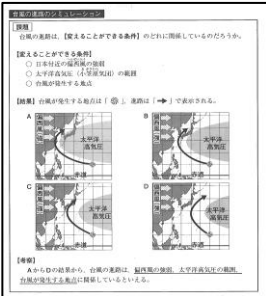
- 実数を文字に置きかえると、計算ができない生徒が増えると考えられる。今後は文字が入った基礎的な計算練習を繰り返し取り入れて、丁寧に指導をしていく。また、 $4 \times$  実数が4の倍数になることを発展させて、 $4 \times ( )$  でも同じことがいえることを系統的に学習させていく。
- 帰納的に調べることで成り立つと予想される事柄を見だし、それを演繹的に推論することで、予想した事柄が成り立つ理由を数学的に表現する場面を設定する。【指導事例】平成30年度 授業アイディア例 参照

## 6 中学校（理科）

◎ 知識を活用して、観察・実験の結果を分析して解釈し、関係を指摘することができる。

◎ 植物の葉などから水蒸気が出る働きが蒸散であるという知識を身に付けているなど、生物的領域の理解が高い。

▲ 台風の周りの風向を表した図から観測地点における風向を予想する場面において、風向の観測方法や記録の仕方に関する知識・技能を活用すること（気象観測：第2分野）



- 気団の性質のモデル実験を行い、気団の性質について考察させる場面を設定し、日本周辺の気団の性質についての基礎的・基本的な知識を身に付ける。また、日本の天気の特徴を日本周辺の気団と関連付けて説明する機会を設定する。

【指導事例】平成30年度 授業アイディア例 参照

▲ 蒸発と湿度に関する知識と、問題解決の知識・技能を活用して、植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘すること（気象観測：第2分野）

2月11日(日) 天気 曇り 気温 22℃

密閉した透明な容器の中に鉢植えの植物を置く。湿度は上がるのだろうか。

【実験】 容器の中の湿度と湿度を測定する器具

A 植物あり B 植物なし

【結果】 2日後の容器の中の湿度は22℃で変わらなかった。

時間(時刻)	0	1	2	3	4
湿度 A 植物あり (%)	37	67	87	88	88
湿度 B 植物なし (%)	38	39	39	38	38

【考察】 実験の結果から、鉢植えの植物を入れた容器の中の湿度は上がっている。

【新たな疑問】 水蒸気が植物から蒸発だけで、湿度が37%から88%に上がるのだろうか。

- 「原因として考えられる要因」を全て指摘し、問題解決の知識・技能を活用して、条件を制御した実験を計画する。

- 小学校、中学校、高等学校の学習内容の系統性に留意し、中学校3年間を見通した指導計画を立て、生徒が主体的に探究する活動となるように授業を構成する。

【指導事例】平成30年度 授業アイディア例 参照